



## 平成31年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年9月12日

上場会社名 株式会社SKIYAKI 上場取引所 東  
 コード番号 3995 URL https://skiyaki.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮瀬 卓也  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 酒井 真也 TEL 03-5428-8378  
 四半期報告書提出予定日 平成30年9月13日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年1月期第2四半期の連結業績（平成30年2月1日～平成30年7月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年1月期第2四半期	1,682	41.2	75	△45.9	69	△49.2	8	△92.3
30年1月期第2四半期	1,191	—	139	—	137	—	115	—

(注) 包括利益 31年1月期第2四半期 7百万円 (△93.2%) 30年1月期第2四半期 114百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年1月期第2四半期	0.86	0.86
30年1月期第2四半期	12.63	—

(注) 1. 30年1月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は平成30年1月期第2四半期において非上場であり、期中平均株価が算定できないため記載しておりません。

2. 当社は、平成30年8月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年1月期第2四半期	2,631	1,155	42.6
30年1月期	2,911	1,160	39.6

(参考) 自己資本 31年1月期第2四半期 1,122百万円 30年1月期 1,152百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年1月期	—	—	—	15.00	15.00
31年1月期	—	—	—	—	—
31年1月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成31年1月期の連結業績予想（平成30年2月1日～平成31年1月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,756	51.0	111	△54.0	117	△45.6	41	△77.2	3.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（平成30年9月12日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。なお、当社は、平成30年8月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。平成31年1月期の通期連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）株式会社SKIYAKI APPS、除外 1社 （社名）－

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年1月期2Q	10,402,000株	30年1月期	10,392,000株
② 期末自己株式数	31年1月期2Q	260株	30年1月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年1月期2Q	10,396,827株	30年1月期2Q	9,175,000株

(注) 当社は、平成30年8月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、緩やかな回復基調が続いております。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続く中で各種政策の効果もあり、緩やかに回復していくことが期待されておりますが、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響が懸念されるなど、今後の動向は依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは、アーティストに係るファンクラブ（以下「FC」という。）サービス、アーティストグッズ等のECサービス及び電子チケットサービス「SKIYAKI TICKET」の取扱いアーティスト数及び提供サービス数を増やし、取引規模を拡大させて参りました。また、FC、EC、TICKET、旅行及びイベント等の既存サービスに加え、スマートフォン向けキャッシュレス決済サービス「SKIYAKI PAY」のリリースや、事業譲受によるライブ・イベントの同行者を探せるSNSサービス「AMIPLE」及び国内最大級の音楽ライブ情報サービス「LiveFans」の取得、ファンの熱量を見える化する「bitfan」の機能を備えたファンクラブを誰でもすぐに開設できるオープン型ファンクラブサービスをローンチするなど、新たなサービスチャネルの展開を積極的に進めて参りました。これにより、平成30年7月31日現在における当社のプラットフォームの総登録会員数は190万人（前年同四半期比60.4%増）を突破しました。

FCサービスについては、サービス数及び有料会員数ともに前連結会計年度末比で増加し、売上高の増加に貢献しました。当該売上高の増加に伴い、プロダクション向けロイヤリティ及び決済代行業者向け回収手数料等の変動費が増加しました。

ECサービスについては、アーティストによるツアー実施等の活動の有無により商品の出荷時期及び出荷金額が変動する特性があり、ストック型ビジネスであるFCサービスと比較して、四半期ごとの売上高の変動性が大きくなる傾向にあります。当第2四半期連結累計期間においては、サービス数は増加したものの、商品の出荷金額が伸びず、売上高が前年同期比で減少した一方で、商品の配送費用等の急激な値上がりを受けて、倉庫物流費用が増加しました。

当第2四半期連結会計期間において連結の範囲に含めている㈱MSエンタテインメント・プランニングのライブ制作収入により、売上高が前年同期比で増加するとともに、制作原価の発生により売上原価が増加しました。

その他、人員数の増加及び昇給に伴う人件費の増加、本社移転によるオフィス賃借料の増加、積極的なM&Aの実施に伴う財務デュー・デリジェンス費用、仲介手数料及びのれん償却額の増加等により、販売費及び一般管理費が増加しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,682,610千円（前年同四半期比41.2%増）、営業利益75,418千円（前年同四半期比45.9%減）、経常利益69,950千円（前年同四半期比49.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益8,937千円（前年同四半期比92.3%減）となりました。

セグメント及び事業のサービス別の売上高については、以下のとおりであります。

#### ①プラットフォーム事業

##### a. FCサービス

FCサービスは、有料会員より毎月又は毎年受領するファンクラブ会費を売上高に計上するストック型ビジネスであることから、安定的かつ継続的な収入が見込まれるという特性を有しております。

当第2四半期連結累計期間においては、サービス数及び有料会員数の増加により、FCサービスの売上高は1,109,064千円（前年同四半期比34.9%増）となりました。なお、FCサービスは、売上高を総額計上しております。

##### b. ECサービス

ECサービスは、有料会員又は無料会員からインターネットを通じて注文を受けた商品を出荷した時点で売上高を計上するフロー型ビジネスであることから、ストック型ビジネスであるFCサービスと比較して、四半期ごとの売上高の変動性が大きくなる傾向にあります。

当第2四半期連結累計期間においては、サービス数は増加したものの、出荷金額が前年同期比で減少したことにより、ECサービスの売上高は278,868千円（前年同四半期比17.5%減）となりました。なお、ECサービスは、当社が受領する販売手数料収入を売上高として純額計上しております。

##### c. その他

その他の売上高は、SKIYAKI TICKET、SKIYAKI GOODS及びSKIYAKI PAYのサービス提供、クラウドファンディング・プラットフォームサービスの提供、その他上記に含まれないサービスに係るシステム提供及びサイト構築及び運營業務の受託等により、34,860千円（前年同四半期比27.2%増）となりました。

②ライブ制作事業

当第2四半期連結会計年度より連結の範囲に含めている㈱MSエンタテインメント・プランニングにおいて、アーティストのライブ・コンサート等の制作を行っております。ライブ制作事業の売上高は、アーティストのライブ制作収入により、220,999千円となりました。

③その他事業

その他事業の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社である㈱ロックガレージにおける旅行・ツアー事業、㈱リアニメーションにおけるイベント企画・制作事業及び㈱MSエンタテインメント・プランニングにおけるコンサート・イベント制作事業等であります。その他事業の売上高は、アーティストのコンサート・イベント制作収入、ファンクラブ旅行パッケージ販売収入及びDJイベントのチケット販売収入等により、259,817千円（前年同四半期比6,636.1%増）となりました。

なお、当第2四半期連結会計年度において、㈱MSエンタテインメント・プランニングを連結の範囲に含めたことに伴い、報告セグメントを従来の「プラットフォーム事業」の1区分から、「プラットフォーム事業」及び「ライブ制作事業」の2区分に変更しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は2,631,141千円となり、前連結会計年度末に比べ280,821千円減少しました。

流動資産については、主に預り金の支払や子会社株式の取得等による現金及び預金の減少658,962千円、売上増加に伴う売掛金の増加87,207千円、主に年会費FCに係るロイヤリティの前払いによる前払費用の増加78,735千円等により、前連結会計年度末に比べ493,230千円減少し、2,244,149千円となりました。

固定資産については、有形固定資産が17,578千円、無形固定資産が247,732千円、投資その他の資産が121,681千円となり、前連結会計年度末に比べ212,408千円増加し、386,992千円となりました。これは主に、子会社及び事業の取得に伴うのれんの増加209,571千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、1,475,931千円と前連結会計年度末に比べ275,561千円減少しました。

流動負債については、FCサービスに係る買掛金の増加179,549千円、年会費FCに係る前受収益の増加60,159千円、主にECサービスに係る預り金の支払による減少510,179千円等により、前連結会計年度末に比べ275,261千円減少し、1,475,031千円となりました。

固定負債については、㈱リアニメーションが計上している長期借入金の返済により、300千円の減少となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5,260千円減少し、1,155,209千円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益8,937千円の計上、非支配株主持分の増加25,380千円、剰余金の配当31,176千円等によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末より658,962千円減少し、1,289,679千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果使用した資金は、413,230千円となりました。

この主たる要因は、税金等調整前四半期純利益37,506千円、前払費用の増加77,916千円、仕入債務の増加78,745千円、預り金の減少542,202千円、前受収益の増加60,159千円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果使用した資金は、214,268千円となりました。

この主たる要因は、自社サービスプラットフォームの付加価値向上のためのシステム開発人件費等のうち、ソフトウェアとして資産に計上した金額4,616千円(無形固定資産の取得による支出)、AMIPLE事業譲受による支出10,000千円、前連結会計年度において持分法適用関連会社であり、当第2四半期連結会計期間において連結子会社となった㈱SKIYAKI OFFLINE(現商号 ㈱SKIYAKI APPS)に対する貸付金の回収による収入16,666千円、持分法適用関連会社である㈱ピーリンク株式の取得による支出29,945千円(投資有価証券の取得による支出)、㈱MSエンタテインメント・プランニング及び㈱SKIYAKI APPSの子会社化に伴う子会社株式の取得による支出183,886千円(連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出)等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果使用した資金は、31,463千円となりました。

この主たる要因は、配当金の支払額31,067千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、FCサービスに係る売上高が堅調に増加している一方で、ECサービスについて、大型商品の出荷減少等により売上高が前年同期比で減少していることに加え、商品の配送費用等の急激な値上がりを受け、当初想定していた利益を確保することが困難であると見込まれること、将来の成長に向けた投資関連費用の発生が多く見込まれること、当第2四半期連結会計期間において連結子会社の株式取得時に計上したのれんに係る減損損失及び投資有価証券評価損を特別損失に計上したこと等の理由により、通期連結業績予想を修正いたしました。

詳細については、本日(平成30年9月12日)公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,948,642	1,289,679
売掛金	456,956	544,164
商品	—	342
前払費用	293,526	372,261
その他	44,371	38,253
貸倒引当金	△6,116	△553
流動資産合計	2,737,379	2,244,149
固定資産		
有形固定資産	15,257	17,578
無形固定資産	40,885	247,732
投資その他の資産	118,440	121,681
固定資産合計	174,583	386,992
資産合計	2,911,963	2,631,141
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	344,009	523,558
1年内返済予定の長期借入金	600	600
未払法人税等	32,827	36,816
預り金	890,365	380,186
前受収益	350,681	410,840
その他	131,810	123,029
流動負債合計	1,750,293	1,475,031
固定負債		
長期借入金	1,200	900
固定負債合計	1,200	900
負債合計	1,751,493	1,475,931
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	553,267	553,392
資本剰余金	527,267	519,086
利益剰余金	72,184	49,945
自己株式	—	△346
株主資本合計	1,152,718	1,122,078
非支配株主持分	7,751	33,131
純資産合計	1,160,470	1,155,209
負債純資産合計	2,911,963	2,631,141

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
売上高	1,191,489	1,682,610
売上原価	732,466	1,175,833
売上総利益	459,023	506,776
販売費及び一般管理費	319,635	431,357
営業利益	139,387	75,418
営業外収益		
受取利息及び配当金	255	320
業務受託料	1,080	720
その他	120	471
営業外収益合計	1,455	1,512
営業外費用		
株式公開費用	2,000	—
持分法による投資損失	1,057	6,500
その他	146	480
営業外費用合計	3,204	6,980
経常利益	137,639	69,950
特別利益		
段階取得に係る差益	—	3,260
特別利益合計	—	3,260
特別損失		
本社移転費用	3,693	—
減損損失	—	18,589
投資有価証券評価損	—	17,114
特別損失合計	3,693	35,704
税金等調整前四半期純利益	133,945	37,506
法人税、住民税及び事業税	19,128	29,468
法人税等調整額	—	227
法人税等合計	19,128	29,696
四半期純利益	114,817	7,809
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,063	△1,128
親会社株主に帰属する四半期純利益	115,881	8,937

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
四半期純利益	114,817	7,809
四半期包括利益	114,817	7,809
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	115,881	8,937
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,063	△1,128



(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	133,945	37,506
減価償却費	8,883	11,343
のれん償却額	—	7,182
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	55	△249
受取利息及び受取配当金	△255	△320
支払利息	—	6
持分法による投資損益 (△は益)	1,057	6,500
段階取得に係る差損益 (△は益)	—	△3,260
減損損失	—	18,589
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	17,114
売上債権の増減額 (△は増加)	△18,230	△14,869
たな卸資産の増減額 (△は増加)	42	△294
前払費用の増減額 (△は増加)	△89,369	△77,916
仕入債務の増減額 (△は減少)	36,145	78,745
預り金の増減額 (△は減少)	112,235	△542,202
前受収益の増減額 (△は減少)	100,003	60,159
その他	12,474	961
小計	296,987	△401,003
利息及び配当金の受取額	255	320
利息の支払額	—	△6
法人税等の支払額	△15,305	△12,541
営業活動によるキャッシュ・フロー	281,938	△413,230
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△747	△2,708
無形固定資産の取得による支出	△7,422	△4,616
貸付金の回収による収入	4,166	16,666
出資金の払込による支出	△11,664	—
出資金の回収による収入	4,352	221
敷金及び保証金の差入による支出	△44,321	—
敷金及び保証金の回収による収入	15	—
事業譲受による支出	—	△10,000
投資有価証券の取得による支出	—	△29,945
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△183,886
投資活動によるキャッシュ・フロー	△55,621	△214,268
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	—	△300
株式の発行による収入	—	250
自己株式の取得による支出	—	△346
配当金の支払額	—	△31,067
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	△31,463
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	226,317	△658,962
現金及び現金同等物の期首残高	640,969	1,948,642
現金及び現金同等物の四半期末残高	867,286	1,289,679

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社SKIYAKI APPSの議決権の過半数を取得したため、連結の範囲に含めております。なお、株式会社SKIYAKI APPSは、当社の特定子会社に該当しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年2月1日至平成29年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他事業 (注)	合計
	プラットフォーム事業		
売上高			
外部顧客への売上高	1,187,632	3,857	1,191,489
セグメント間の内部売上高 又は振替高	360	—	360
計	1,187,992	3,857	1,191,849
セグメント利益又は損失(△)	140,522	△2,335	138,187

(注) 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社における旅行・ツアー事業等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	140,522
その他事業の利益又は損失(△)	△2,335
セグメント間取引消去	1,200
四半期連結損益計算書の営業利益	139,387

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成30年2月1日至平成30年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他事業 (注)	合計
	プラットフォーム事業	ライブ制作事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,422,792	220,999	1,643,792	38,817	1,682,610
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,242	—	1,242	—	1,242
計	1,424,035	220,999	1,645,035	38,817	1,683,852
セグメント利益又は損失(△)	82,650	677	83,328	△2,545	80,783

(注) 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社における旅行・ツアー事業及びイベント制作事業等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	83,328
その他事業の利益又は損失(△)	△2,545
セグメント間取引消去	706
のれんの償却額	△6,071
四半期連結損益計算書の営業利益	75,418

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「プラットフォーム事業」セグメントにおいて、連結子会社である株式会社リアニメーション及び株式会社SKIYAKI APPSの株式取得時に計上したのれんについて、想定した収益が見込めなくなった等の理由により帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当額減少額を減損損失として特別損失に計上しました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において18,589千円であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第2四半期連結会計年度において、株式会社MSエンタテインメント・プランニングを連結の範囲に含めたことに伴い、報告セグメントを従来の「プラットフォーム事業」の1区分から、「プラットフォーム事業」及び「ライブ制作事業」の2区分に変更しております。

なお、当該報告セグメントの変更に伴う前第2四半期連結累計期間の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額への影響はありません。